

銀漢亭日録



伊藤伊那男

る。

10月22日(日) ▼数句会の選句。「銀漢」十二月号の校正。鮪の残りをツケにして軽く焼いた刺身など。

23日(月) ▼二十四日入院の案内を受ける。華子さん十九歳の誕生日、併せて小生の入院壮行会とて、馬刺、ユツケ、馬肉鍋の夕食。シャインマスカットのチーズケーキ。

24日(火) ▼宮澤に送って貰い九時、順天堂大学医院に入院。十六階の部屋。孫達の激励の色紙が荷の中にあり。血液検査、レントゲン。

25日(水) ▼九時間近くぐっすり眠る。今日は栄養剤を飲むだけと。臍のそうじ。夕方、手術についての説明を受ける。

26日(木) ▼七時半起床。体重六十五・一kg。下剤処理。八時半、手術室に入り、背中から麻酔を入れて意識を失う。

27日(金) ▼集中治療室で苦痛な、眠れない一夜を過ごし、部屋へ戻る。いきなり制御が効かず立ったまま下痢。

28日(土) ▼怒濤の二日間であった。談話室から御茶ノ水の堀を見下ろす。

29日(日) ▼今日から食事が出る。ほんの少し食す。シャワー実に気持ちよし。手術痕を見ると、何ともメツタ切り。

30日(月) ▼前二日間が嘘のように全く食欲なく、脱力感。メールも打てない。どうやら昨日までは麻酔が効いていたため、カラ元気であった。

31日(火) ▼苦しい一日。ほんの少しの咳でも傷口の痛さは只事ではない。恐怖。

11月1日(水) ▼もうろうとした一日。ヨーグルトだけ少々口に入れ

2日(木) ▼ヨーグルト少々。午後、「北軽井沢句会」の柴山つぐ子姉が見舞に来て下さる。入口の硝子扉越しなら面会可と。食事はまだ駄目。蜜柑、シャインマスカット少々。

3日(金) ▼「大山鍛練句会」に参加の皆様へ近況報告のメールを送る。やや長いメールを打てるようになった。ご飯少々。十五分ほど病廊を歩く。

4日(土) ▼まだ日記など書くのが辛い。朝、納豆と、粒を数えられる位のご飯と味噌汁。担当医はまずは順調な回復基調というが、手術痕の化膿はひどい。毎日のシャワーで泡だてた石鹸で傷口を洗うのがなかなかの作業。十五分ほど病廊を歩く。

5日(日) ▼ヨーグルトと葡萄少々。桃子と硝子越しに面会。溜まっていたお見舞のメールなどに返信。まだ脱力感あり。これが一仕事。日曜日で静かなのでついつい散歩をさぼる。

6日(月) ▼早く抜きすぎたと思われる脇腹のドレーンの跡から一日、七、八百ccの腹水が出ていたが、昨夜あたりからは止まる。これは精神的にも随分違う。研修学生(島田さん)に励まされて病廊を三十分散歩。午後も四十分散歩。杏子来てくれる。今日は桃子の誕生日。

7日(火) ▼雨。朝食少々。相変わらず膿多し。但し、感染症の数値はかなり改善しているという。十五分ほど散歩。午後、研修生の介添えて本館地下のコンビニで郵便物を投函。少し気力が戻りつつあり。夕方、大野田さんが大山阿夫利神社の祈禱札を届けて下さる。参加者一同からと。手術内容が未だに不確かさに担当医に聞く。胆のう、胆管、十二指腸は全摘。脾臓は半分。胃は四分の一切除となかなかである。

8日(水) ▼昨日下午剤飲むが反応なし。今日、座薬にも反応なし。つ

いに流腸にて実に十二日振りの便通。安堵！午後、研修生に励まされて八階の屋上庭園を三十分ほど散歩。快晴。秋の草花を見る。感染症は遅々として治らず。桃子来て硝子越しに面会。夜、冷奴、サラダ少々。

9日(木) ▼朝食、パンだったせいか、八割食す。数句会の選句。胆汁のドレーンを抜く。あとは脾液のドレーン一本となる。便通あり。感染症はこの手術では起こり易く特に緊急入院時に胆汁を通すためのステントを入れたので雑菌が混入したのではと。午前中十分、夕方二十五分の散歩。

10日(金) ▼小便近く熟睡できず。感染症も治まらず。七時半、便通少々あり。「銀漢賞」の件で秋葉男さんにメール。「本部句会」に出句。「大倉句会」の記念祝賀会に挨拶のメール。夕方、二十五分散歩。

11日(土) ▼割合気分よし。三日振りの髭剃り。メール何人かに。朝食、パン一枚、ヨーグルト。あと二十分散歩。昼、ホットドッグ、頬張って食べてみるが胃もたれしてヘタる。夕方、気を取り直して散歩二十分。

12日(日) ▼苺ジャムでパン少々。便通二日無し。下剤を飲んだが駄目。座薬でようやく効果あり。晴れ晴れ。夕方三十分散歩。桃子来る。今度は下剤が効きすぎて難儀。

13日(月) ▼外はかなり寒くなった様子。朝食半分ほど。午前中気意よく過ごす。「NHK俳句」二月号の「一句句会」の校正。句会の選句など。担当医が、今週末位に退院できるかもと。え！まだ膿はずい分出ているし、食欲は無いし、便通は不確かだし……。夕方三十分散歩。富士の夕景が美しい。夜、腕の点滴を外す。

14日(火) ▼夜明けの富士を見る。朝食四分の三位食す。今日は朝シヤワーを浴びてすぐ処置室で壊死した細胞などを鉗で除去。散歩は

十五分位しかできず。杏子来てくれる。昼食、夕食共ほとんど食べられず。「銀漢句会」に出句。

15日(水) ▼朝シャワーで手術痕を洗い治療。「本部句会」選句。食欲なし。シャワーのあと治療。だからら過こす。便通なし。夕方、三十分散歩。膿は減ってきている。

17日(金) ▼割合元気。断片的な日記を纏める。手術についてのエッセイを粗書きしてみる。ようやく文字を書く気力が始まる。朝食半分以上食す。採血、レントゲン、シャワーのあと治療。これだけでぐったり。十五時過ぎ、杏子来てくれる。昨夜から処方されたツムラの大建中湯の効果で便通あり。昼、夕食はほとんど食べられず。

18日(土) ▼シャワーあとの治療で切傷の皮膚の下のストローを抜く。大分気分が違ふ。夕方三十分散歩。一月号の選句を少し。

19日(日) ▼六時ごろから朝日に染まっっていく富士山を三十分程眺める。やや食欲が出てきたので栄養剤の小腸への注入は終了。昼過ぎ、三十分散歩。「銀漢」一月号の選句。少し疲れて昼寝。

20日(月) ▼朝食後に便通あり。安堵。脾液のドレーンが抜けてついに点滴棒と別れる。市田先生より22日(水)退院はどうかと。そのあとは通院。桃子来てくれる。夕方、三十分散歩。

21日(火) ▼便通あり。食事しっかり取る。当面の自宅用薬貰う。夕方散歩四十分。スクワット少々。汗ばむ。

22日(水) ▼栄養剤の管を抜く。昼、杏子の迎えを受けて退院。先生、看護師さんの至れり尽くせりのお世話に只々感謝。天野屋に寄り、芝崎納豆とひね沢庵を買って帰宅。頼んでおいた卵を落とした八丁味噌汁、鰯の開きでお粥の昼食。部屋のソファにゆったり寛ぐ。